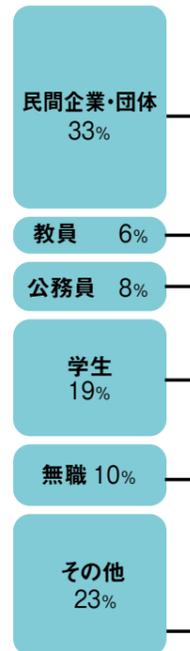


### 帰国後のキャリアを教えてください

さまざまな職種とスキルを持つ人が応募し参加するJICA海外協力隊。帰国後は経験と身につけた力を生かし、多くの分野で活躍している。

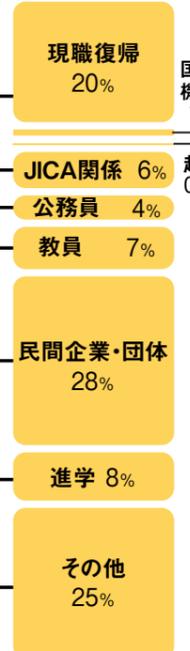
#### 2013年度応募者



派遣

帰国

#### 2016年度帰国者



国際機関 1%  
起業 0.3%

アフリカで起業しました!

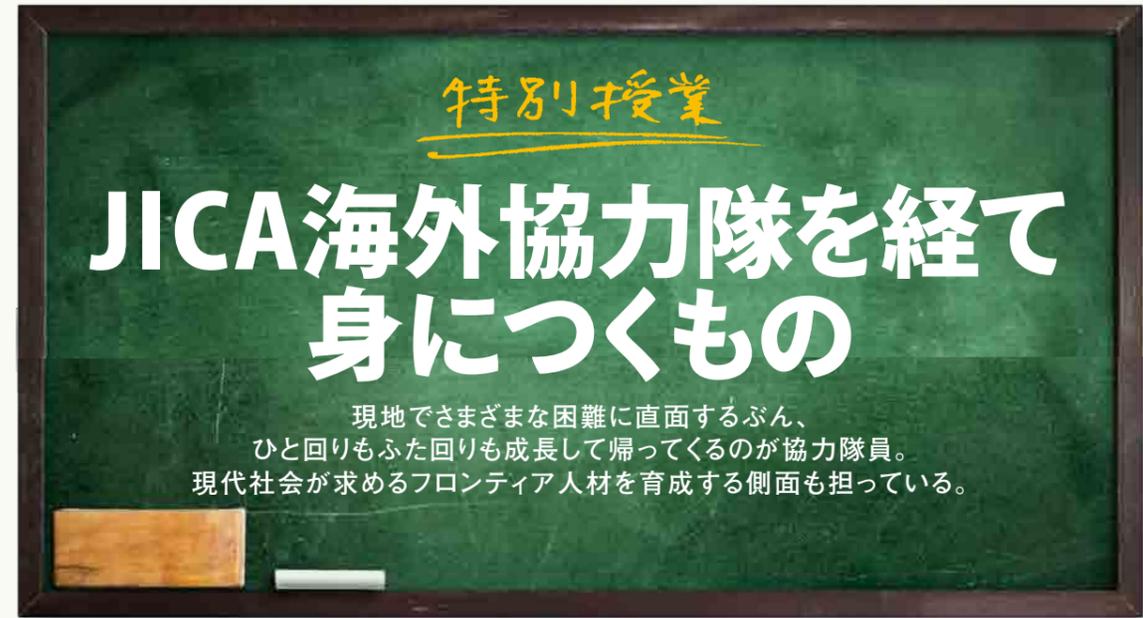


左から山家さん、農業スタッフのペドロさん、現地パートナーのジュディティさん。

過去 2010年1次隊/モザンビーク/村落開発普及員

現在 モリンガ・モザンビーク 代表取締役社長

**山家友明(やんべ・ともあき)さん**  
協力隊時代に描いた起業の夢を実現  
モザンビークで「モリンガ」の栽培と販売を手掛ける会社を2014年に現地パートナーと立ち上げました。「モリンガ」は栄養価が高く、美容によいとスーパーフードとして世界でも注目されている植物です。アフリカでは物事がなんでもゆっくり進むので、もどかしい気持ちになることも多いですが、農村の現金収入源になりうる作物として広げたいと思っています。いまは5名を雇用し、栽培と販売を行っています。「モリンガオイル」は、昨年から生産を始めたばかりなので年間200リットルほどの量ですが、近々日本への輸出も始める予定です。隊員時代に培った企画力とコミュニケーション力で「モリンガ」の市場をモザンビーク国内に作りたくと考えています。



現地でさまざまな困難に直面するぶん、ひと回りもふた回りも成長して帰ってくるのが協力隊員。現代社会が求めるフロンティア人材を育成する側面も担っている。

### すべての経験が、成長の糧となる

「JICA海外協力隊事業は、人を育てるといって大きな側面を持っています」と言うのは、青年海外協力隊事務局長の山本美香さん。広い視野を持って新しい価値を見出す力、協力者を増やしていく「コミュニケーション力」、実践する行動力などが培われるという。

「途上国のさまざまなリスクを考えると、物事を見ることや観察力も養われます。2年間で多様な力が着実に身につけていきます」。現地の課題はあるものの、自分はそのために何ができるのかを考えることから始めなくてはならない。「たった二人で異

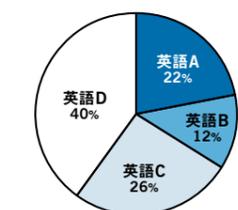
### 応募の前に

#### 語学力が不安です

英語以外の言葉を使用する派遣国が大半。事前の訓練では派遣国に応じて現在22カ国語の授業が用意され、しっかりとサポート態勢が整っている。応募当初は、英語スキルがD判定の人もいるが、訓練所での学び後、コミュニケーションでできるレベルまで上達する。

英語スキル目安 (TOEICの場合) / A: 730点以上、B: 640点以上、C: 500点以上、D: 330点以上

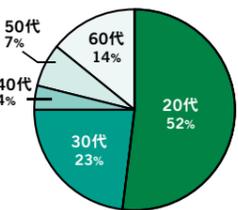
#### 応募時の英語レベル



#### 年齢に関係なく応募できます

20歳から69歳までが対象となっている。世界に貢献したいと、これまでの社会経験を生かして応募する40代、50代、60代も多い。

#### 参加者の年代(応募当時)



文化に入っていくのは大変です。相手の社会を理解し、適応していく中で、他者とのつながり、自分自身の力で周囲の協力を得ていくことが必要になります。

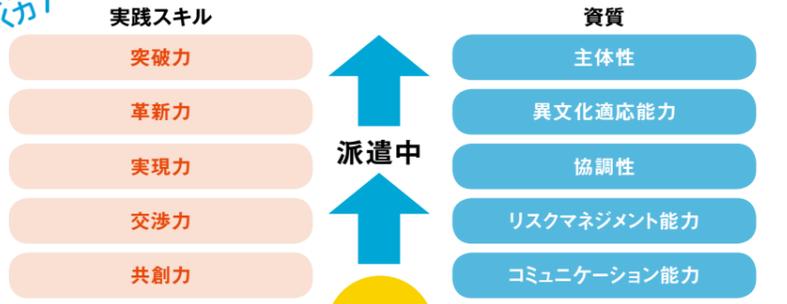
また、「すべての活動が順調に進むとはかぎりません。うまくいかず落ち込むこともあります。それまでにない孤独を感じる場面もありま。それらに耐えてやり抜くことができるとき、自分を乗り越える精神力が身につくように思います」と、山本さんは隊員だった経験をもとに語った。

いま社会で求められているのは、海外、国内に関係なく、革新的なア

### フロンティア人材の資質と可能性

### 活動で、どんなスキルが身につきますか?

協力隊を経て、「既存の枠組みにとらわれず、新しい試みを率先して実践するフロンティア人材」として成長する。



派遣先では、隊員の活動を現地事務所がサポートするほか、健康管理支援や安全対策などを行っています。熱い想いとともにご応募ください。



教えてくれた人 青年海外協力隊事務局長 山本美香(やまもと・みか)さん